

# 1 自己評価及び外部評価結果

## 【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	3390400038		
法人名	メディカル・ケア・サービス関西株式会社		
事業所名	愛の家グループホーム玉野 (北ユニット)		
所在地	玉野市田井1丁目6-19		
自己評価作成日	H23. 9. 23	評価結果市町村受理日	

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	<a href="http://www.kaigokouhyou.jp/kaigosip/infomationPublic.do?JCD=3390400038&amp;SCD=320&amp;PCD=33">http://www.kaigokouhyou.jp/kaigosip/infomationPublic.do?JCD=3390400038&amp;SCD=320&amp;PCD=33</a>
----------	---

## 【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社ハートバード		
所在地	岡山県倉敷市阿知1-7-2-803 ぐらしきシティプラザ西ビル8階 ぐらしきベンチャーオフィス7号室		
訪問調査日	平成23年10月17日		

## 【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

愛の家は、全国140箇所以上のGHを展開させて頂いており、地域との関係作りをもっとして運営をさせて頂いております。愛の家グループホーム玉野は、中四国九州エリアと地域としては広いですが、ホーム長含め他の愛の家との情報共有が行える体制を作っております。  
当ホームは、日々利用者様お一人おひとりのADLに合わせたケアを行い、寄り添ってのコミュニケーションを行っております。そして、とても明るいスタッフが揃っておりますので、毎日いつでも笑い声と歌声の耐えないホームとなっております。ご家族様もご協力的で、外出支援やお祭りなどに参加して下さりお手伝いもして下さいます。

## 【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

利用者と職員の朗らかな笑い声があふれ、活気あるグループホームである。家族への介護記録の開示、地元のボランティアや幼稚園・学校の積極的受け入れ、自治会の一員としての掃除当番など、家族にも地域にも開かれた事業所になろうという姿勢が強く感じられた。全国140カ所以上でグループホームを展開する法人に属し、全国規模での行事や研修など、ノウハウを共有しつつ、個々の事業所が切磋琢磨できる仕組みが築かれている。その中でも当事業所は、3年連続で事例の全国大会に選出され、便秘の予防や改善ができる「きなこ牛乳」は、多くの事業所で採り入れられた。昨年発表した「足マッサージ」は、利用者からも好評で、心と心を通わせるのに役立つと、審査員特別賞を受賞した。介護経験の浅い職員が多いにもかかわらず、事務所に掲示された「介護とは介助が仕事ではなく、心をかけることが仕事」という標語が、管理者の指導の下、しっかりと実践されていた。

## V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目: 23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています (参考項目: 9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらい 3. 家族の1/3くらい 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目: 18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目: 2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目: 38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目: 4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目: 36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働いている (参考項目: 11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目: 49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごさせている (参考項目: 30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目: 28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I 理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	MSC開設時から作られているもので、スタッフには理念の意味を「道しるべ・反省の為に」ある物と説明しており、毎朝朝礼時、出勤スタッフ全員で唱和しています。	「その人らしい生活のサポート」等を含む、法人内のグループホーム共通の理念があり、職員全員が理念を具現化できるよう、月1回の全体会議時にポイントを絞った月間目標を決めている。理念や月間目標は毎朝唱和し、各人の心に刻んでから仕事に取りかかっている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	田井地区、自治会、近隣の3ヶ所から適したお付き合いを考えており、ホーム主催のお祭りなどに参加して頂けるような声掛けを行っています。田井幼稚園からは、毎年の恒例行事としてホームに訪問して下さいます。	自治会の一員として、ごみ置き場の掃除当番に加わっている。事業所主催の秋祭りには、利用者家族や近隣の人など約70名が集まり、盛況だった。幼稚園や小学校との交流会、中学生の職場体験の受け入れや地区の祭りへの参加を通じて、地域との結び付きを深めている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	自治会に入らせて頂き、ゴミステーションの掃除など年2～3回行っています。また、小学校・中学校・高校の体験学習などの受け入れも行っています。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	社内での規定で、2ヶ月に1回必ず運営推進会議の開催を掲げていますので、行うようにしています。また、ボランティアの受け入れも積極的に行っています。	会議では利用者の状況や行事予定を報告している。参加者から事業所通信や職員の教育について意見をもらい、運営の気づきを得ている。また、参加者からの声かけによって、地元ボランティアによるコーラスや大正琴の演奏会が実現した。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	日ごろより、副ホーム長・ケアマネ・事務員が行政に提出書類などを持って行き、協力関係を築いております。そして、市の相談員の方が2ヶ月に1度訪問に来て下さり入居者様とお話をして下さいます。	市の介護相談員派遣事業により、市から利用者の話し相手をする人が2ヶ月に1度来訪し、利用者の声をフィードバックしてくれる。地域包括支援センターの職員も、毎回必ず運営推進会議に出席し、日頃の連携が取りやすい関係を築いている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	会社全体のマニュアルもあり、身体的な拘束だけでなく、言葉による拘束もあると全体会議などの時間を使い話し合いを行っています。	玄関は昼間開錠・解放され、室内での拘束も見受けられなかった。身体拘束ケアマニュアルも整備されている。傷を掻きむしる利用者の家族から「ミトンをはめてほしい」と依頼されたが、安易に同意せず、タオルや手袋を試してみるなど、拘束をしないで済むような工夫を、全職員で取り組んでいる。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	会社全体のマニュアルもあり、言葉・身体・投棄等の虐待にあたる勉強会を行っています。		

愛の家グループホーム玉野

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	現在は、対象者がいないので行っておりませんが、そうなった場合は研修を受けるなどの体制を作っています。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又はや改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入居契約時、ご家族様と重要事項説明書の読みあわせを行い、都度不明点などの確認を行っており、ご家族様には十分な説明を得られております。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	会社全体の相談窓口を設けており、意見箱の設置もしている。また、本社主催のご家族様アンケートを毎年実施しており、ホームにフィードバックされ改善に向けている。	年1回の家族アンケートや専門の相談窓口など、法人全体として利用者や家族からの意見・要望を聞く体制が整っている。アンケート結果は事業所に伝えられ、法人全体平均との差もわかるため、改善に役立っている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	本社からの実施で、職員アンケートを実施しています。毎月1回の全体会議やユニット会議でスタッフ同士の意見交換や提案などの反映も行っております。	職員全体会議やユニット会議を月1回行い、意見や提案を聞いている。職員から、法人の事例発表会で良かったものを取り入れたいとの声が上がりに、検討後、実施に至った。また、職員アンケートなど、法人全体として職員の意見を聞く制度がある。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	ホーム長の他に中四国を管轄し管理を行っているリージョンマネージャー・西日本を管轄し管理を行っているディビジョンマネージャーがおり、定期的なホーム訪問を行って、職場の環境等の整備を行っている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	外部研修の参加を促し、参加終了後には、全体会議等で他のスタッフへの情報の共有に努めている。また、内部研修では、本社での研修資料を基に定期的に行うようにしている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	玉野市のグループホーム協議会が半年に1回開催されるので、毎回出席させて頂き、他のグループホームとの情報交換を行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居前のアセスメントに行かせて頂き、ご本人様にお話をさせていただき、ご本人様が困っていることや不安なことなど傾聴する事で、安心して過ごして頂けるよう努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	ご家族様が不安なく利用者様を入所出来るよう説明を行い、いつでも相談できるような関係作りを構築している。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	ご本人様・ご家族様が必要としている支援を見極め、ご本人様にとってより良いものを提供できるようにしている。また、サービスの変更があった時などは、都度相談し、変更している。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	テラスの散歩やテラスでのお茶会・洗濯物干しなどご本人様でご自分でできる事をスタッフと一緒に、日々関係を築いている。		
19		○本人と共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	毎日ではないが、何か起きる度に連絡を取らせて頂いております。ご家族様とのコミュニケーションを大切にしており、スタッフとの会話も出来ております。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	近隣の友人の方がホームに来られたり近隣の方へ電話でお話する利用者様もいらっしゃいます。また、ユニット間での馴染みの関係作りを行い、両ユニット交流しています。	月1回、家族へ利用者の様子やお知らせを職員が手書きし、利用者が家族にあてた直筆の一言を同封する。家族や友人の面会時には明るく出迎え、来訪を歓迎し、事業所に通いやすい雰囲気作りに努めている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	全入居者様が出来る合同のレクリエーション・各ユニット毎のレクリエーション・個別に傾聴したり歌を歌ったりする個別レクリエーションと毎日変化を起しながらかつています。		

愛の家グループホーム玉野

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	他の施設や病院に、お引越しをされた際、ご本人様・ご家族様には「何かお困りの時には、いつでもご連絡ください」と声掛けを行っています。そして、お引越し後も、お引越し先に出向き、お話の出きるような関係を構築しています。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	ご本人様のお話の中から、意向をお聞きしています。そして、ご家族様との会話の中から意向の把握に努めており、コミュニケーションの難しい入居者様の把握についてはご家族様に聞き把握に努めています。	職員は常に笑顔で利用者に接し、どうしたらもっと思いを聞き取れるかを常に考え、工夫している。中でも週1回の足マッサージは、人肌のぬくもりを味わえることで利用者が心を開き、施術中の1対1のコミュニケーションは貴重な時間となっている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	ご利用者様の生活歴や馴染みの暮らし方など、多方面からの情報収集に努めています。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	各勤務に入る前の申し送りやカンファレンス等で、日々の状態の把握に努めています。そして、利用者様の少しの変化も見逃すことのないよう、スタッフ同士の情報の共有に努めています。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	介護計画書は、社内で決められた様式があるので、その様式に沿って作成しています。また月に回のユニット毎のカンファレンスや半年後とのスタッフによるモニタリングやアセスメントを作成し計画作成を行っています。	家族へ介護記録を公開し、状態を詳しく知ってもらうことで意見を得ている。介護計画は詳細かつ具体的である。各人の短期目標一つ一つに対し、毎日実施状況が記録され、月1回のユニット会議等で検討した内容は、次の計画にきちんと反映されている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の利用者様の行動や言動、また、利用者様の状態は個別の介護記録に記入しています。バイタル・排泄などは、一覧の表にし、したっふ全員が一目でわかるようにし、情報共有しています。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	一人ひとりの生活環境や心身の状態の把握を行い、可能な限りの外出支援を行っています。外出支援時、ご家族様にご協力を頂き、行けない入居者様が出る事のないように支援しています。		

愛の家グループホーム玉野

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域の幼稚園の慰問や2～3ヶ月に1回のボランティアの方の慰問など積極的に行っています。ボランティアの方の慰問は、毎回違う方(演奏会やおどりなど)に来て頂いており、都度楽しむことができるように支援しています。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	毎週木曜日に訪問歯科が来て下さり、口腔ケアなど行って下さいます。そして、主治医の往診は、2週間に1度来て下さり、適切な対応ができるようにしています。	定期的に往診があれば安心で便利と、入居時にかかりつけ医を事業所の協力医へ変更する人が多い。必要に応じて他の医療機関の受診も支援している。医師と家族とは受診連絡表を介して本人の状態や家族の意向を互いに確認できる。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	社内には、看護師はおりませんが、往診医の訪問看護の看護師の方が来て下さり、全入居者様の体調管理をして下さいます。往診医と訪問看護の看護師が同じ病院ですので、連携もとりやすくなっております。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時、サマリーを作成し、病院への情報共有し退院時は、看護サマリーを作成していただき、情報の共有が行えている。また、入居者様が入院中は、スタッフが日替わりでお見舞いにも行かせて頂き、病院での状況を聞き、当ホームスタッフに伝えおり、情報の共有もあっている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	ターミナルケアの経験は、ありませんが、ご家族のご希望に、なるべく添えるように行っています。グループホームが最後の家と思って頂けるように体制の強化を行い、主治医との密な連絡体制を構築しています。	本人と家族には、入居時に重度化した場合の指針を基に事業所で出来る最大限のケアについて説明を行い契約時に同意を得ている。24時間体制の訪問介護と主治医と常に連絡できる体制を取り、チームでケアができるよう努めている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	社内にマニュアルがあり、そのマニュアルに沿って行うようにしている。また、急変時に備えての勉強会を行うようにしている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	避難訓練は、夜間を想定したものを含め、年2回開催しています。しかし、地域の方の参加での消防訓練が行えていないので、今後は、運営推進会議等での議題にあげさせて頂き、参加を促していきます。	災害時のマニュアルが整備され、緊急時の対応方法はわかりやすい位置に掲示されている。利用者も参加した避難訓練を実施しているが、全職員への周知には至っていない。	消化器がユニットに1つしかないので、早急な増設を期待したい。また、全職員が緊急時の連絡や避難誘導を確実にできるよう、訓練時だけでなく、普段からの周知徹底を期待する。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	一人ひとりを尊重し、声掛けを行っておりますが、ご本人様やご家族の方の希望により、入居者様のお名前を呼ばせて頂いている方もいらっしゃいます。排泄時には、トイレの外で待ったりとプライバシーに配慮し支援しています。	利用者と接する職員の目線や姿勢に、年長者として尊重する気持ちが表れている。一人ひとりに適した接し方、呼び方を職員で共有し、実践している。本人や家族の希望と了解により「おとうちゃん」など愛称で呼ぶ場合もある。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	利用者様の状態に合わせ、ご自身で決めることができるように支援しています。耳が遠くコミュニケーションが難しい場合には、筆談でのコミュニケーションも取り入れています。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	入居者様の1日の過ごし方を優先に考え支援しています。職員の1日の流れとしては、一応決まっていますが、その日その日を大切に楽しく笑顔で過ごせるよう支援しています。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	起床時・入浴後など、入居者様が着たいと思う服装と一緒に選び更衣をして頂いています。また、お出かけに行く際には、お化粧などの支援も行っています。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	メニューは、社内で決められた物を使用していますが、季節毎に季節に因んだ食事の提供を行っています。また、季節によっては、外(テラス)でのお食事もしていただけるような支援を行っています。	調理専門の職員により、各人の好き嫌い、嚥下状態や提供時間への細やかな配慮ができています。その分、他の職員は利用者の傍らで歌や体操と一緒にやり、テーブルを囲んで食事をし、楽しくゆったりと食事ができる雰囲気になっている。可能な人は下ごしらえや下膳を手伝う。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	入居者様の食べられる量を、スタッフ全員が把握し、情報の共有が出来ており、入居者様が全部食べられるような支援を行っています。また、水分摂取量にかんしては、都度量を記入し、把握に努めています。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	食後の口腔ケアは、洗面所に誘導し、行っています。また、週1回の訪問歯科による口腔ケアも行っており、スタッフへの口腔ケア指導も頂いております。		

愛の家グループホーム玉野

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	入居者様には、紙オムツの使用よりも紙パンツの使用がいいと思っております。日中は、時間ごとにトイレにお連れし、トイレ内での排泄をして頂けるような支援を行っております。	排泄水分摂取量管理票に記録し、排泄パターンを把握し、本人の様子や時間を見計らってトイレに誘導している。夜間は各人の状態や希望により、パッド交換とトイレ誘導を分けている。昼も夜も、おむつ使用者は一人もいない。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	以前、キナコ牛乳を便秘対策として行っておりました。現在も、継続しておりますが、反応がなくなりました。そのため、現在は、キナコ牛乳の他に、朝食時のヨーグルトの提供を行っております。また、夕方の歩行練習を行い、腸の活発な動きの誘発も行っております。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	週3回の入浴支援を行っております。入浴の声掛けにお断りをされる入居者様には、再度ご家族からのアドバイスなども情報として頂きながらご本人様が気持ちよく入浴できる方法を見つけ支援しています。	入浴は週3回で曜日を決めているが、利用者の気持ちや状態により柔軟に対応している。入浴時間は昼間となるが、月数回は夕食後も可能な日を設けている。入浴は利用者職員が1対1になる唯一の時間なので、一人ひとりに応じた話ができるよう心がけている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	夜間、眠れない方への安眠方法として、暖かい飲み物の提供を行い、一緒に過ごしお話を傾聴するようにしています。寝ることを優先せず、ゆっくりと過ごしていただいております。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	入居者様の服薬ファイルを作成し、全スタッフが把握できるようにしている。薬の副作用などの情報共有が行えており、内服時には、個々の内服を間違える事のないように、2度3度の確認を行っている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	入居者様の得意とされるものの情報をご家族にお聞きし、ホームで行って頂けるよう支援している。毎日のお手伝いは、日々違う入居者様にしているよう支援しています。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	季節毎の行事や食事会・ドライブとユニット全員で出かける機会を作っている。また、日常的にテラスでのお散歩は行っており、入居者様、自ら歩行訓練や日向ぼっこをされる。	月1回、海や利用者の自宅付近などをドライブすると共に、買い物や誕生日祝いなど、家族と一緒に外出・外泊して過ごす時間を持てるよう支援している。広いテラスでは野菜や花を育て、いつでも、ひなたぼっこやおしゃべり、歩行訓練ができる。	坂の途中に立地しているため、以前は外で散歩できた利用者も、現在は難しくなった。その分、近場へのドライブや買い物など、車を使った日常的な外出がもう少し増えることを期待する。

愛の家グループホーム玉野

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	お小遣いは、ホーム内金庫でお預かりさせて頂いておりますが、ご本人様のご希望により、お財布に多少のお金をお持ちの方もいらっしゃいます。その都度ご家族様に確認させて頂きながら支援しています。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	毎月、ホーム内新聞送付時、入居者様からご家族様へ向けてのお手紙を書いていただき、送付しています。ご本人様が、電話を掛けたい時にも速やかに対応しています。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	ユニット内で、気の合う方同士の座席にしていますが、雰囲気を変える為、定期的な席替えを行っているユニットもあります。当ホームは、ユニットの間に事務所がありますので、ホーム全体が仲間という意識もあります。	天窓から注ぐ日差しで、リビングは明るく温かい。調理の前後で温度を計り調整している。木目調で揃えられた家具に、ソファのカバーとコルクボードに掲示した利用者の写真や作品がアクセントとなり、バランスのとれた落ち着いた配色となっている。テラスの花やベンチは、くつろげる空間を演出している。	換気扇やエアコン、引き戸のレールなど、普段は掃除しない場所での埃や汚れが見受けられた。毎日の清掃以外に、定期的に掃除を実施し、より快適な空間になるよう期待したい。
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ユニットホールのソファにゆっくりと寛いでおられ、時には、居眠りをされる入居者様もいらっしゃいます。そして、仲のよい入居者様同士の会話を楽しまれたりと思い思いに過ごしていただいております。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	当ホームでは、ベット・タンス・テレビ台は、備え付けですが、入居者様の使い慣れたものを持ち込み頂き、居心地良く暮らして頂けるような支援を行っています。	心が和むものにいつも囲まれるよう、鉢植えの花の水やりや、写真や作品の飾り付けを手伝っている。家族と一緒に整理整頓をしたり、季節ものを居室外の収納スペースに預かって、安全に心地良く過ごせる工夫をしている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	全居室にナースコールを設置しております。居室で過ごされるときには、いつでもコールを押せるような配慮をしてあります。そして、夜間は、居室内、廊下共に夜光灯があり、足元を照らすので危険性のないような支援を行っております。		

# 1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	3390400038		
法人名	メディカル・ケア・サービス関西株式会社		
事業所名	愛の家グループホーム玉野(南ユニット)		
所在地	玉野市田井1丁目6-19		
自己評価作成日	H23. 9. 23	評価結果市町村受理日	

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	<a href="http://www.kaigokouhyou.jp/kaigosip/infomationPublic.do?JCD=3390400038&amp;SCD=320&amp;PCD=33">http://www.kaigokouhyou.jp/kaigosip/infomationPublic.do?JCD=3390400038&amp;SCD=320&amp;PCD=33</a>
----------	---

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社ハートバード
所在地	岡山県倉敷市阿知1-7-2-803 ぐらしきシティプラザ西ビル8階 ぐらしきベンチャーオフィス7号室
訪問調査日	平成23年10月17日

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目: 23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています (参考項目: 9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目: 18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目: 2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目: 38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目: 4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目: 36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働いている (参考項目: 11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目: 49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごさせている (参考項目: 30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目: 28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない			

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	MSC開設時から作られているもので、スタッフには理念の意味を「道しるべ・反省の為に」ある物と説明しており、毎朝朝礼時、出勤スタッフ全員で唱和しています。		
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	田井地区、自治会、近隣の3ヶ所から適したお付き合いを考えており、ホーム主催のお祭りなどに参加して頂けるような声掛けを行っています。田井幼稚園からは、毎年の恒例行事としてホームに訪問して下さいます。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	自治会に入らせて頂き、ゴミステーションの掃除など年2～3回行っています。また、小学校・中学校・高校の体験学習などの受け入れも行っています。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	社内での規定で、2ヶ月に1回必ず運営推進会議の開催を掲げていますので、行うようにしています。また、ボランティアの受け入れも積極的に行っています。		
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	日ごろより、副ホーム長・ケアマネ・事務員が行政に提出書類などを持って行き、協力関係を築いております。そして、市の相談員の方が2ヶ月に1度訪問に来て下さり入居者様とお話をして下さいます。		
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	会社全体のマニュアルもあり、身体的な拘束だけでなく、言葉による拘束もあると全体会議などの時間を使い話し合いを行っています。		
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	会社全体のマニュアルもあり、言葉・身体・投薬等の虐待にあたる勉強会を行っています。		

愛の家グループホーム玉野

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	現在は、対象者がいないので行っておりませんが、そうなった場合は研修を受けるなどの体制を作っています。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又はや改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入居契約時、ご家族様と重要事項説明書の読みあわせを行い、都度不明点などの確認を行っており、ご家族様には十分な説明を得られております。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	会社全体の相談窓口を設けており、意見箱の設置もしている。また、本社主催のご家族様アンケートを毎年実施しており、ホームにフィードバックされ改善に向けている。		
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	本社からの実施で、職員アンケートを実施しています。毎月1回の全体会議やユニット会議でスタッフ同士の意見交換や提案などの反映も行っております。		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	ホーム長の他に中四国を管轄し管理を行っているリージョンマネージャー・西日本を管轄し管理を行っているディビジョンマネージャーがおり、定期的なホーム訪問を行っており、職場の環境等の整備を行っている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	外部研修の参加を促し、参加終了後には、全体会議等で他のスタッフへの情報の共有に努めている。また、内部研修では、本社での研修資料を基に定期的に行うようにしている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	玉野市のグループホーム協議会が半年に1回開催されるので、毎回出席させて頂き、他のグループホームとの情報交換を行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居前のアセスメントに行かせて頂き、ご本人様にお話をさせていただき、ご本人様が困っていることや不安なことなど傾聴する事で、安心して過ごして頂けるよう努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	ご家族様が不安なく利用者様を入所出来るよう説明を行い、いつでも相談できるような関係作りを構築している。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	ご本人様・ご家族様が必要としている支援を見極め、ご本人様にとってより良いものを提供できるようにしている。また、サービスの変更があった時などは、都度相談し、変更している。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	テラスの散歩やテラスでのお茶会・洗濯物干しなどご本人様でご自分でできる事をスタッフと一緒に、日々関係を築いている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	毎日ではないが、何か起きる度に連絡を取らせて頂いております。ご家族様とのコミュニケーションを大切にしており、スタッフとの会話も出来ております。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	近隣の友人の方がホームに来られたり近隣の方へ電話でお話する利用者様もいらっしゃいます。また、ユニット間での馴染みの関係作りを行い、両ユニット交流しています。		
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	全入居者様が出きる合同のレクリエーション・各ユニット毎のレクリエーション・個別に傾聴したり歌を歌ったりする個別レクリエーションと毎日変化を起こしながら係っています。		

愛の家グループホーム玉野

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	他の施設や病院に、お引越しをされた際、ご本人様・ご家族様には「何かお困りの時には、いつでもご連絡ください」と声掛けを行っています。そして、お引越し後も、お引越し先に出向き、お話の出きるような関係を構築しています。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	ご本人様のお話の中から、意向をお聞きしています。そして、ご家族様との会話の中から意向の把握に努めており、コミュニケーションの難しい入居者様の把握についてはご家族様に聞き把握に努めています。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	ご利用者様の生活歴や馴染みの暮らし方など、多方面からの情報収集に努めています。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	各勤務に入る前の申し送りやカンファレンス等で、日々の状態の把握に努めています。そして、利用者様の少しの変化も見逃すことのないよう、スタッフ同士の情報の共有に努めています。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	介護計画書は、社内で決められた様式があるので、その様式に沿って作成しています。また月に回のユニット毎のカンファレンスや半年後とのスタッフによるモニタリングやアセスメントを作成し計画作成を行っています。		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の利用者様の行動や言動、また、利用者様の状態は個別の介護記録に記入しています。バイタル・排泄などは、一覧の表にし、したっふ全員が一目でわかるようにし、情報共有しています。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	一人ひとりの生活環境や心身の状態の把握を行い、可能な限りの外出支援を行っています。外出支援時、ご家族様にご協力を頂き、行けない入居者様が出る事のないように支援しています。		

愛の家グループホーム玉野

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域の幼稚園の慰問や2～3ヶ月に1回のボランティアの方の慰問など積極的に行っています。ボランティアの方の慰問は、毎回違う方(演奏会やおどりなど)に来て頂いており、都度楽しむことができるように支援しています。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	毎週木曜日に訪問歯科が来て下さり、口腔ケアなど行って下さいます。そして、主治医の往診は、2週間に1度来て下さり、適切な対応ができるようにしています。		
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	社内には、看護師はおりませんが、往診医の訪問看護の看護師の方が来て下さり、全入居者様の体調管理をして下さいます。往診医と訪問看護の看護師が同じ病院ですので、連携もとりやすくなっております。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時、サマリーを作成し、病院への情報共有し退院時は、看護サマリーを作成していただき、情報の共有が行えている。また、入居者が入院中は、スタッフが日替わりでお見舞いにも行かせて頂き、病院での状況を聞き、当ホームスタッフに伝えおり、情報の共有も行っている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	ターミナルケアの経験は、ありませんが、ご家族のご希望に、なるべく添えるように行っています。グループホームが最後の家と思って頂けるように体制の強化を行い、主治医との密な連絡体制を構築しています。		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	社内にマニュアルがあり、そのマニュアルに沿って行うようにしている。また、急変時に備えての勉強会を行うようにしている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	避難訓練は、夜間を想定したものを含め、年2回開催しています。しかし、地域の方の参加での消防訓練が行えていないので、今後は、運営推進会議等での議題にあげさせて頂き、参加を促していきます。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	一人ひとりを尊重し、声掛けを行っておりますが、ご本人様やご家族の方の希望により、入居者様のお名前を呼ばせて頂いている方もいらっしゃいます。排泄時には、トイレの外で待ったりとプライバシーに配慮し支援しています。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	利用者様の状態に合わせ、ご自身で決めることができるように支援しています。耳が遠くコミュニケーションが難しい場合には、筆談でのコミュニケーションも取り入れています。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	入居者様の1日の過ごし方を優先に考え支援しています。職員の1日の流れとしては、一応決まっていますが、その日その日を大切に楽しく笑顔で過ごせるよう支援しています。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	起床時・入浴後など、入居者様が着たいと思う服装と一緒に選び更衣をして頂いています。また、お出かけに行く際には、お化粧などの支援も行っています。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	メニューは、社内で決められた物を使用していますが、季節毎に季節に因んだ食事の提供を行っています。また、季節によっては、外(テラス)でのお食事もしていただけるような支援を行っています。		
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	入居者様の食べれる量を、スタッフ全員が把握し、情報の共有が出来ており、入居者様が全部食べれるような支援を行っています。また、水分摂取量にかんしては、都度量を記入し、把握に努めています。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	食後の口腔ケアは、洗面所に誘導し、行っています。また、週1回の訪問歯科による口腔ケアも行っており、スタッフへの口腔ケア指導も頂いております。		

愛の家グループホーム玉野

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	入居者様には、紙オムツの使用よりも紙パンツの使用がいいと思っております。日中は、時間ごとにトイレにお連れし、トイレ内での排泄をして頂けるような支援を行っております。		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	以前、キナコ牛乳を便秘対策として行っておりました。現在も、継続しておりますが、反応がなくなりました。そのため、現在は、キナコ牛乳の他に、朝食時のヨーグルトの提供を行っております。また、夕方の歩行練習を行い、腸の活発な動きの誘発も行っております。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	週3回の入浴支援を行っております。入浴の声掛けに、お断りをされる入居者様には、再度ご家族からのアドバイスなども情報として頂きながらご本人様が気持ちよく入浴できる方法を見つけ支援しています。		
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	夜間、眠れない方への安眠方法として、暖かい飲み物の提供を行い、一緒に過ごしお話を傾聴するようにしています。寝ることを優先せず、ゆっくりと過ごしていただいております。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	入居者様の服薬ファイルを作成し、全スタッフが把握できるようにしている。薬の副作用などの情報共有が行えており、内服時には、個々の内服を間違える事のないように、2度3度の確認を行っている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	入居者様の得意とされるものの情報をご家族にお聞きし、ホームで行って頂けるよう支援している。毎日のお手伝いは、日々違う入居者様にして頂けるよう支援しています。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	季節毎の行事や食事会・ドライブとユニット全員で出かける機会を作っている。また、日常的にテラスでのお散歩は行っており、入居者様、自ら歩行訓練や日向ぼっこをされる。		

愛の家グループホーム玉野

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	お小遣いは、ホーム内金庫でお預かりさせて頂いておりますが、ご本人様のご希望により、お財布に多少のお金をお持ちの方もいらっしゃいます。その都度ご家族様に確認させて頂きながら支援しています。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	毎月、ホーム内新聞送付時、入居者様からご家族様へ向けてのお手紙を書いていただき、送付しています。ご本人様が、電話を掛けたい時にも速やかに対応しています。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	ユニット内で、気の合う方同士の座席にしていますが、雰囲気を変える為、定期的な席替えを行っているユニットもあります。当ホームは、ユニットの間に事務所がありますので、ホーム全体が仲間という意識もあります。		
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ユニットホールのソファにゆっくりと寛いでおられ、時には、居眠りをされる入居者様もいらっしゃいます。そして、仲のよい入居者様同士の会話を楽しまれたりと思い思いに過ごしていただいております。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	当ホームでは、ベット・タンス・テレビ台は、備え付けですが、入居者様の使い慣れたものを持ち込み頂き、居心地良く暮らして頂けるような支援を行っています。		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	全居室にナースコールを設置しております。居室で過ごされるときには、いつでもコールを押せるような配慮をしてあります。そして、夜間は、居室内、廊下共に夜光灯があり、足元を照らすので危険性のないような支援を行っております。		